

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12493

研究課題名(和文) 新人訪問看護師への新人教育と職務継続との関連に関する縦断的研究

研究課題名(英文) Association between educational support and job retention for novice home healthcare nurses

研究代表者

森 陽子 (MORI, Yoko)

横浜市立大学・医学研究科・共同研究員

研究者番号：20739180

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：訪問看護事業所が新人訪問看護師へ提供する教育的支援を測定する指標(Educational Support Assessment Scale for Novice Home Healthcare Nurses: ESA-NHHN)を開発し、その有用性を学術的に評価した。

包括的な文献レビューとコルブの経験学習理論を基に設定した尺度項目案を用いて、無記名自記式調査票を用いた横断調査を行った結果、【知識の獲得】、【実践を重ねる】、【経験を省察する】、【管理者からの支援】の34項目4因子から構成されるESA-NHHNが開発された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護事業所の管理者は、ESA-NHHNを使用して自己の事業所の新人訪問看護師への教育的支援を評価し点検することで、必要な改善策を検討することができる。ESA-NHHNを効果的な人材育成に活用することが可能である。このことは、訪問看護事業所への新人訪問看護師の早期適応と定着を促し、訪問看護人材の確保に繋がる可能性がある。

研究成果の概要(英文)：We developed a scale to measure the educational support provided by home healthcare agencies to novice home healthcare nurses (Educational Support Assessment Scale for Novice Home Healthcare Nurses: ESA-NHHN) and academically evaluated its usefulness.

Using a comprehensive literature review and initial scale items based on Kolb's theory of experiential learning, a cross-sectional survey using a self-administered questionnaire resulted in the development of the ESA-NHHN, which consists of 34 items and 4 factors: [Acquire new knowledge], [Concrete experience], [Reflective observation of own experience], and [Support from home healthcare agency managers].

研究分野：看護管理 在宅看護

キーワード：訪問看護 新人訪問看護師 教育的支援

## 1. 研究開始当初の背景

平均寿命の進展に伴い、医療ニーズの増大に対応するための戦略として、在宅医療が世界中で推進されている。在宅医療は、患者の退院後数週間の身体的なケアや、アセスメントを必要とする期間の回復プロセスにおいて、不可欠な要素である。在宅医療は通常、医療施設の提供するケアよりも安価であり、利便性が高い。しかし、世界的に在宅医療に従事する訪問看護師数は不足しており、在宅医療における訪問看護のニーズの高まりに対応できていない現状がある。

日本では、訪問看護の需要増に伴い訪問看護事業所数は増加しているが、訪問看護師数は需要を満たしていない。訪問看護人材が需要を満たしていない要因の一つとして、訪問看護事業所が提供する新人訪問看護師への教育的支援が、訪問看護師個々の背景を考慮したものでないことから、訪問看護への早期適応を遅らせていることが挙げられる。訪問看護事業所への就労時に事業所が提供する支援を改善し発展させることで、新人訪問看護師の訪問看護への早期適応を促し、定着を促進する可能性がある。訪問看護師の定着を促し離職を減少させることが、十分な訪問看護人材を確保するために不可欠である。

このため、申請者は、訪問看護事業所が新人訪問看護師へ提供する教育的支援を測定する指標を開発し、その有用性を学術的に評価することが、訪問看護事業所への新人訪問看護師の早期適応と定着を促し、訪問看護人材の確保に繋がると考えた。

## 2. 研究の目的

本研究では、(1)訪問看護事業所による新人訪問看護師への就労時の教育的支援についてのインタビュー調査、(2)訪問看護師の職務満足度尺度の日本版の開発、(3)訪問看護事業所による新人訪問看護師への教育的支援を測定する指標の開発の3点を目的とした。

## 3. 研究の方法

(1)訪問看護事業所による新人訪問看護師への就労時の教育的支援についてのインタビュー調査  
首都圏の訪問看護事業所へ訪問看護未経験で就労し、就労期間が6か月以上かつ3年未満であり、医療機関等の臨床経験を持つ新人訪問看護師を対象に半構造化面接を行った。対象者は新人訪問看護師8名であった。

(2)訪問看護師の職務満足度尺度の日本版の開発

EI Ilenbecker (2008)が開発したThe Home Healthcare Nurses' Job Satisfaction Scale(HHNJS)の日本語版の開発のために、郵送法による無記名自記式調査票を用いた横断調査を実施した。はじめに、全国訪問看護事業協会のデータベースの正会員リストに掲載されている関東甲信越地方の訪問看護事業所に、研究協力の可否について回答を得る文書を郵送した。次に、研究協力について同意の得られた154事業所へ調査票を郵送した。対象者は、現在の訪問看護事業所に6か月以上継続して就労している訪問看護師とした。

(3)訪問看護事業所による新人訪問看護師への教育的支援を測定する指標の開発

郵送法による無記名自記式調査票を用いた横断調査を実施した。全国訪問看護事業協会のデータベースを利用し、正会員リストに掲載されている訪問看護事業所の中から、都道府県別に層化無作為抽出した3,000事業所に調査票を郵送した。3,000事業所の内、300事業所に再テスト法を実施した。1回目の調査票への回答後、2~3週間後に2回目の調査票への回答を得た。対象

者は、病院等の医療機関での臨床経験があり、訪問看護領域に初めて就労した看護師の内、現在の訪問看護事業所に6か月以上3年未満継続して就労している訪問看護師とした。

#### 4. 研究成果

##### (1) 訪問看護事業所による新人訪問看護師への就労時の教育的支援についてのインタビュー調査

8名の新人訪問看護師への半構造化面接により得られたデータを質的帰納的に分析した結果、【段階的に自立を促す同行訪問】、【プリセプター制の導入】、【段階的に責任が増える24時間対応体制】、【計画的な事業所内研修】等の6カテゴリーに分類できた。新人訪問看護師は単独訪問の開始等、負担感の強い役割に対し段階的に自立を促す支援体制を肯定的に捉えていた。これらより、訪問看護の専門性を徐々に習得する就労時においては、段階的に自律性を高め、負担感を緩和する支援の必要性が示唆された。

##### (2) 訪問看護師の職務満足度尺度の日本版の開発

研究協力について同意の得られた154事業所へ調査票を郵送した結果、446名より回答を得た(回答率53.4%)。分析対象の尺度項目への回答に欠損のあった37名を除外した409名を分析対象とした。確認的因子分析の結果、【患者との関係】、【同僚との関係】、【組織との関係】等から構成される7因子構造の一定の妥当性が確認された。尺度全体のクロンバック係数は0.91であり、高い信頼性が確認された。従って、HHNJS日本語版により日本の訪問看護事業所に就労する訪問看護師の職務満足度を測定することが可能であることが確認された。

##### (3) 訪問看護事業所による新人訪問看護師への教育的支援を測定する指標の開発

訪問看護事業所による新人訪問看護師への教育的支援測定尺度(Educational Support Assessment Scale for Novice Home Healthcare Nurses: ESA-NHHN)を開発し、その信頼性と妥当性を検証した。9,000名の対象者のうち、731名より回答を得た(回収率8.1%)。分析に使用する尺度項目に欠損の無い627名を分析対象とした。内的一貫性、再テスト信頼性、構造的妥当性、併存的妥当性についての分析結果より、尺度の安定性と妥当性が確認された。ESA-NHHN全体と各下位因子のクロンバック係数は基準値を十分に満たしており、内的一貫性が確認された。再テスト信頼性についても高い安定性が確認された。構造的妥当性は探索的因子分析により4因子が抽出され、これらの4つの下位因子の関連性は論理的枠組みにおいて仮定した構成要素と適合していた。確認的因子分析では、CFI=0.876、GFI=0.810であり基準値をわずかに満たしていないが、RMSEAは0.076であり、一定の妥当性が確認できた。全体として、ESA-NHHNの4因子構造の構造的妥当性は中程度に許容できるものであった。ESA-NHHNの合成得点及び4因子と、各外的基準との偏相関係数において有意な正の相関が認められ、十分な教育的支援が行われている訪問看護事業所に就労する新人訪問看護師は、帰属意識と職務満足度が高い傾向にあることが確認された。従って、併存的妥当性が確認されたといえる。

訪問看護事業所の管理者は、ESA-NHHNを、効果的な人材育成に活用することが可能である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 森 陽子, 深堀 浩樹	4. 巻 10
2. 論文標題 訪問看護事業所による就業時の教育的支援への臨床経験を持つ新人訪問看護師の認識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本看護評価学会誌	6. 最初と最後の頁 31, 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mori Y, Sasaki M, Ogata Y, Togari T	4. 巻 15(205)
2. 論文標題 The development and validation of the Japanese version of job satisfaction scale: a cross-sectional study on home healthcare nurses	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Research Notes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13104-022-06092-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Mori Y, Sasaki M, Ogata Y, Togari T	4. 巻 23(326)
2. 論文標題 Development and psychometric validation of an educational support assessment scale for novice home healthcare nurses	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Medical Education	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12909-023-04313-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森陽子, 深堀浩樹
2. 発表標題 新人訪問看護師の訪問看護への就労継続を促す訪問看護事業所の教育的支援
3. 学会等名 第24回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	深堀 浩樹  (Fukahori Hiroki)  (30381916)	慶應義塾大学・看護医療学部(藤沢)・教授   (32612)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------